

平成28年度京都市民健康づくり推進会議摘録

1 開催日時

平成29年3月28日（火）午後3時～午後4時25分

2 開催場所

本能寺文化会館5階 醍醐ホール

3 出席者

京都大学大学院医学研究科 教授	中山 健夫
市民委員	駒井 一正
市民委員	福井 登志江
京都市地域女性連合会	加藤 アイ
京都市保健協議会連合会	山内 寛
（公社）京都市保育園連盟	嶋本 弘文
京都大学 環境安全保健機構 健康管理部門 健康科学センター	石見 拓
京都労働局労働基準部	古澤 稔正
（一財）京都工場保健会	橘 宏
（独法）労働者健康安全機構 京都産業保健総合支援センター	細見 進
（一社）京都府医師会	藤村 聡
（一社）京都府歯科医師会	岸本 知弘
（一社）京都府薬剤師会	谷尾 桂子
（公社）京都府看護協会	中島 すま子
（公社）京都府栄養士会	岸部 公子
（公社）京都府歯科衛生士会	白波瀬 由香里
（一財）京都予防医学センター	鮎子田 睦子
（特非）日本健康運動指導士会京都府支部	一島 康樹
京都府国民健康保険団体連合会	長谷川 敏彦
健康保険組合連合会京都連合会	新谷 元司
全国健康保険協会京都支部	近藤 こずえ
（株）京都放送	湯浅 勝
京都市教育委員会	松村 淑恵
京都市衛生環境研究所	川上 雅弘
京都市健康増進センター	辻本 成秀

事務局	保健医療・介護担当局長	居内 学
	保健衛生推進室長	松田 一成
	保健担当部長	吉山 真紀子
	保健医療課長	志摩 裕丈
	「健康長寿のまち・京都」推進担当課長	小西 直人

4 摘録

【開会の挨拶】 居内保健医療・介護担当局長

【市民委員紹介】

○ 事務局（志摩保健医療課長）

今回、新たに市民委員に就任いただく二人を御紹介させていただく。前任の任期がこの3月に終えたことから公募を行ってきた。駒井一正様と福井登志江様から、一言ずつ御挨拶をお願いしたい。

○ 市民委員 駒井一正氏

「山科で健康づくりサポーターをしている。前回も市民委員として、本会議には参加させていただいた、引き続き、携わりたいとの思いから応募させていただいた。よろしくお願いいたします。」

○ 市民委員 福井 登志江氏

「右京区の健康づくりサポーターとして、第1期生として取り組んでいる。様々な会場でメタバックス運動の普及などに取り組んでいる。これからよろしくお願いいたします。」

【報告・議題】（議事進行は議長である中山教授）

①報告「平成28年度の取組状況及び平成29年度の取組予定について」

○ 事務局（橋部係長）【資料5～12を説明】

(1)「健康長寿のまち・京都」の実現に向けた取組について（資料5）

- ・ 平成28年度から開始した「健康長寿のまち京都いきいきポイント」において、第1回応募に1,516件、第2回に1,430件の応募をいただいた。29年度は更なる広がりを目指していく。
- ・ 29年度は、「健康長寿のまち・京都いきいきアプリ（仮称）」の開発、広報活動の強化、アウトリーチ型の取組の強化を進める。

(2)「栄養・食生活」に関する取組について（資料6）

平成29年度は、「保護者・地域との連携による食育の推進」として特定給食施設等への指導を強化する。加えて、食育指導員養成講座を再開し、食育に関わる人材育成に努める。

(3)「身体活動・運動」に関する取組について（資料7）

- ・ 指針の数値目標は、策定時から数値が改善しているものが多いが、中には下がっているものがあり、全ての世代における数値が改善できていない状況である。
- ・ 本指針は、29年度で策定から5年が経過することから、指針の改定を予定している。
- ・ 29年度以降の取組は、一人ひとりが主体的に身体活動の活性化に取り組めるよう、各区等における地域特性、ニーズ、課題を把握し、地域に根差した取組として、指針に基づいた健康教室等を実施する。
- ・ さらに、行政だけでなく、「健康長寿のまち・京都市民会議」や地域のネットワーク等を通じて、関係団体と協働で事業を実施する等、市民ぐるみの積極的な環境づくりを推進する。

(4)「休養・こころの健康」に関する取組（自殺予防対策）について（資料8）

- ・ 「きょう いのち ほっとプラン（京都市自殺総合対策推進計画）」は、最近の自殺をめぐる状況等を踏まえ、更なる自殺対策を推進するべく、改定計画を策定することとしている。
- ・ 3月13日まで市民意見を募集した。これらの御意見を参考にしながら、今年度末に向けて、鋭意計画を策定中です。
- ・ 今後は、自殺対策の実態把握や情報分析を行い、支援を推進する「京都市地域自殺対策推進センター」を「障害保健福祉推進室」に設置し、総合的な推進体制の強化を図っていく予定である。

(5) 「歯と口の健康」に関する取組について（資料9）

現在の指針を策定してから、8年が経過し、歯科保健を取り巻く環境も求められるニーズも変化していることから、本年度実施したアンケート結果や各歯科保健データを活用し、現指針の評価と見直しを行い、歯と口の健康づくりを通じて健康寿命の延伸を図るための口腔保健推進実施計画（仮称）を策定する予定である。

(6) 「喫煙」に関する取組について（資料10）

「身体活動・運動」指針と同様に、「たばこ対策指針」の見直しを行う。

(7) 「飲酒」に関する取組について（資料11）

「身体活動・運動」、「たばこ」分野の指針と同様に、「飲酒に関する行動指針」の見直しを行う。

(8) 「京都市国保における特定健康診査・特定保健指導」について（資料12）

- ・ 27年度の実績は、特定健康診査受診率は、24.7%となっており、年々増加傾向となっている。また、保健指導の実施率については、20.5%となり政令市では比較的高い実施水準を維持している。
- ・ 現在、広報媒体物、電話・はがきによる各種受診勧奨及び保健指導利用勧奨の取組のほか、より多くの人に健診受診・保健指導利用いただけるよう、検査項目の追加や受診者プレゼントの実施など健診の魅力を高める取組を進めている。

(質疑応答)

○ 中山議長

- ・ 包括的に取組であり、様々な連携機関と実績を積んでこられ、心強く思う。
- ・ 「飲酒」に関する取組において、数値目標で、母子健康手帳交付時による「妊娠中に飲酒するもの割合」があったが、全国的に同様の調査をしているものか。

○ 事務局（吉山部長）

本市独自の調査である。飲酒している妊婦に対しては、手帳の交付時に指導している。

○ 中山議長

妊娠中の喫煙については、調査をしているのか。（資料10参照に掲載）

○ 事務局（吉山部長）

同様に調査、指導をしている。

○ 健康科学センター（石見教授）

栄養、歯の健康など、ここまで取組を実施しているとは認識がなかった。これらの全大学

にどの様に周知し、協働を呼び掛けているのか。

○ 事務局（大西係長）

栄養食生活に関する取組では、保健センターでは健康講座の実施や、大学のイベント等でミニ健康展を実施し、徐々に啓発を進めているところである。周知は全大学にしているのではなく、個別に調整している。

○ 健康科学センター（石見教授）

大学保健のネットワークは強固であり、市内の大学には京都市の取組を呼掛けをすることができるので、活用するなど、戦略的に取り組んでいただきたい。

○ （公社）京都府栄養士会（岸部会長）

母子健康手帳に関することだが、日本人全体の傾向としてビタミンDを生成しない傾向にあり、妊婦にとっては、骨の形成や皮膚などに影響が出る。母子健康手帳に日光を浴びるような指導を記載すべきである。

○ 事務局（吉山保健担当部長）

母子健康手帳以外の妊婦に配布する資料に記載したり、プレママ教室等での知識普及に努める。

○ 中山議長

母子健康手帳には、自治体の意向で追記することもできる。日光浴については、皮膚がんのリスクも高まるので、見直しをされた経過があるが、日光に当たらないことにも問題がある。

【各構成団体の取組報告】

○ 中山議長（資料13）

この推進会議の構成団体の取組についての取組が資料13に取りまとめられている。各構成団体の皆様から、補足説明等がありましたら、挙手にてお願いする。

○ （公社）京都府栄養士会（岸部会長）

日本栄養士会では8月4日を栄養の日として定めており、正式な認可はまだおいていないが8月7日に全国的な啓発イベントの開催を検討しているので、周知させていただいた。

○ （一社）京都府医師会（藤村理事）

- ・ 健康長寿の取組として、予防医学の観点から高齢者のスポーツ活動を支援するというテーマで、内科医師、整形外科医師による運動上のアドバイスを行った。併せてボランティアである山科健康づくりサポーター「キャットハンズ」や京都市からも講話いただいた。
- ・ どの様にして病気の予防につなげるかを中心に進めていこうと思っている。来年度は、健康寿命の延伸に向けて、ロコモティブシンドローム、フレイルやサルコペニアなど、病気になる前から、病気の予防に医師会は取り組んでいく。

○ （一社）京都府歯科医師会（岸本理事）

- ・ 病は口からをベースとして、高齢者歯科健診の取組を充実したい。身体が虚弱となるフ

レイルの前段階であるプレフレイル、口から始まるオーラルフレイルの予防を進めたい。

- ・ 高齢者の取組と並行して、働き盛りの世代の健診受診率を向上させるため、産業分野や学生に対する取組等を展開していきたいと考えている。取組のイメージはあるが、大学保健等に対して働きかけるための手段・連携がないので、この会議を御縁にコンタクトを取ればと思っている。

○ 健康科学センター（石見教授）

- ・ 連携についてはぜひ御相談いただきたい。
- ・ 大学保健の取組を紹介させていただく。京都大学には学生・職員で約3万人がおり、全員に対してアプローチをすることができる。
- ・ 現状の健康診断は遅れており、母子健康手帳や健康診断結果、お薬手帳は手書きで記録されているものの、活用されていない。
- ・ データを活かした健康管理を進めることを大きなミッションとしている。
- ・ 来年度から、健康診断結果を自動的に電子化して取り込む、蓄積できるデータ管理システムを開始し、データを活用した取組を実現してモデル化したい。
- ・ 日本の健康診断文化は素晴らしく、京大では毎年受験率90%以上である。
- ・ 学内でベンチャー企業を立ち上げ、生涯に渡って健康情報を管理活用できる仕組みを構築できればと考えている。
- ・ 大学ではじめた健康管理を、地域に広げて、将来的には、お年寄りを含め、みんながデータを活かせるような社会づくりを京都から発信していきたい。

○ 中山議長

世界的に見ても、先進的な取組である。データに基づいた評価、今後の展開を検討するような土壌を作っていければよいのではないか。

○ 京都労働局労働基準部（古澤主任地方労働衛生専門官）

京都労働局の取組状況の補足をさせていただく

- ・ 働き方改革について、悪循環から好循環への転換を図っている。長時間労働の是正、女性の活躍促進、非正規労働者の待遇改善を3つの柱として、健康確保につなげる。
- ・ メンタルヘルス対策として、平成27年12月からストレスチェック制度が義務化され、心の健康の一次予防の強化に努めている。
- ・ 安全衛生優良企業認定制度には長時間労働是正、健康診断実施等を推奨する目的があり、働きやすい環境づくりにつなげている。
- ・ 平成28年2月に、事業場における治療と職業生活両立支援のためのガイドラインを策定し、働きながら、治療を続けていく、つまり、仕事を辞めなくていいようにしていく。業務により疾病が悪化しないよう、配慮を行うことを労働者の健康の確保対策として位置づけていき、より力を入れていきたい。

○ （一社）京都府薬剤師会（谷尾参与）

- ・ 平成28年10月から、開始された健康サポート薬局について御紹介させていただく。
- ・ まちの薬局は、薬の販売・調剤だけでなく、かかりつけ薬局としての機能を求められて

いる。それらに加えて、主体的な健康づくりを支援する薬局を健康サポート薬局として名乗れる制度である。

- ・ 現在、府下で亀岡市に1箇所あり、地域住民の健康相談や栄養イベントに取り組んでおられる。将来的には、中学校区に一つくらいを目指す。

【議題】「京都市民健康づくりプラン（第2次）」の現状と到達点の評価、見直し及び各指針の改定について

○ 事務局（橋部係長）（資料14、15、調査票を説明）

- ・ 「京都市民健康づくりプラン（第2次）」は、健康寿命の延伸や受動喫煙対策の強化などを始め、新たな健康づくりに対する課題が出てきており、本市の現状における課題の把握や、総合的な分析が必要となっている。
- ・ また、平成28年度には、「健康長寿のまち・京都市民会議」が発足するとともに、「健康長寿のまち・京都推進プロジェクト」の取組が本格的に開始するなど、本市の「健康づくり」を取り巻く情勢が大きく変化している。
- ・ これらを踏まえ、「健康長寿のまち・京都」の実現に向け、健康づくりプランの現状の到達点の評価、分析するとともに、見直しを行う。
- ・ 合わせて、計画期間が29年度までとしている分野別指針、「歯と口の健康」、「喫煙」、「身体活動・運動」、「飲酒」についても、改定を行う。
- ・ 見直しに向けては、市民の健康づくりへの意識、生活実感などを把握し、プランの重点項目等の成果指標の達成状況を確認するために、健康づくりに関する意識調査を実施する。【調査票の説明】

（質疑応答）

○ 健康科学センター（石見教授）

健康づくりにおいて、フィジカル、メンタルヘルスの双方が重要である。メンタルに関する設問が調査票にない理由はどうか。

○ 事務局（橋部係長）

本市では「きょういのちほっとプラン（京都市自殺総合対策推進計画）」に基づき取組を進めているところだが、御意見を踏まえ、設問を精査していきたい。

○ 中山議長

前回の調査票の回収率はいかほどか。

○ 事務局（橋部係長）

平成24年1月に今回と同様に5,000件を調査しており、44.9%の回収率であった。

【閉会の挨拶】 松田保健衛生推進室長

（閉会）